



## 第13回桑野地区「少年・少女の主張」発表会 中学生の主張文

## 『私の個性』

郡山第六中学校 加藤 さん

みなさんは、「吃音症について知ってる？」と聞かれたら「はい。」と答えられますか？

吃音症とは、「あ、あ、ありがとう。」や「・・・ありがとう。」のように言葉が詰まってしまったり、初めての音を何度も繰り返してしまったりしてうまく話せない発達障害のことを言います。

私は、目立ちたがり屋で発表したり、また友達などと話したりすることがとても大好きです。ですが大勢の前で何かをされると緊張して吃音が出てしまいます。普通の人からすればわざとやっているように見えたり、噛んでいるように見えたりして面白いかもしれないけど、自分自身からすれば言おうとしても言葉がのどを通らなくて練習のようにできなくてとても悔しく、恥ずかしくなります。

中学校に入ってから「か行」がうまく話せなくて、先生にあいさつをする時「こんにちは」をすぐ言えなくて先生が通り過ぎてからやっと声に出せて言えます。激励会などで発表をするときも自分の名前をつかえてしまったり、緊張しすぎて思い通りいかなかったりして、とても悲しかったです。でも同じ学校の友達などが励ましてくれたおかげで、ずっと引きずらずに前向きに学校生活を送れました。

中学校に入学してから吃音性が出てしまう人を何人か見かけたことがあります。そのうち一人は、友達に少し笑われていました。それを見て私は胸が痛くなりました。自分も小学生の時、笑われたりしたことがあったので、多分笑われた本人はとても嫌な思いをしたと思います。何かを言った人や相手をいじったりした人は、すぐ忘れて何もなかったようにしてしまうけど、笑われた方からしたら一生忘れることはありません。また、吃音は周りの人の対応によって症状が悪化したり、そんなにできなくなったりします。私の親友は、本を買って調べてくれて、吃音がでたりしたら優しく対応し、私が気にしないようにしてくれました。また、その親友とは、ずっと同じクラスで悪化せず安心して学校生活を送れています。また、気づけば相談できる人も増えていて、悩みを聞いてくれる大切さを実感しました。

ある日、本を読んでいた時、不思議な言葉がありました。その言葉、それは「吃音は個性」。初めは何を言っているのか、何を伝えたいのか全く分かりませんでした。考えてみれば治ることのない吃音性をプラスに考え、これから一緒に過ごしていくものと考えて個性として大切にしていって欲しいと、私にはそう感じました。筆者が何を伝えたかったのかは筆者にしかわかりませんが、自分にはそのように感じました。まだ相変わらず「か行」が苦手をつかえてうまく自分の名前を滑らかに言えなかったり、国語の丸読みなどで緊張して詰まってしまったりしますが気にせず、これから何かみんなの前でしたり、代表をしたいなどと思ったら「吃音は個性」なのだからと考え、ポジティブ思考で生活していきたいです。

悩みは目には見えないものなので、もしかしたらいつも元気な友達が裏ではつらい思いをして泣いていたりするかもしれません。どんなに小さな変化でもいつもとちょっと様子が違ったりしたら、「大丈夫？」「相談にのるよ！」など声をかけてあげることで、相手からしたら心の支えになったり、勇気をもらえたりするかもしれません。まだまだ知っている人が少ない吃音症ですが、相手のためにも相談にのってあげたり、気持ちに寄り添ってあげたりしてみんなが楽しく、安心して生活を送れるようになって欲しいです。そのためには一人一人が気にかけてあげることが大切です。みなさんも他人事のように考えず、少しでも吃音症について理解したり、吃音のことで困っている人の話を聞いてあげたりして欲しいです。そのようなことをすることによって、悩んでいた人はとても救われると思います。また、自分も吃音症である自身をマイナスに考えずプラスにして日々楽しく学校生活をおくっていきたくたいです。



## ひび割れ壺と少年

ぶん：松本 純 え：大村 竜夫

ひびの入った壺と、ひびの入っていない壺を運ぶ、少年のお話しになります。



この絵本は、高学年に向けて読み聞かせをしました。繊細で丁寧な描写かつ温かみのある絵と内容がとても良く合っていて、思わず一言一句、丁寧に読み聞かせたくなります。みなさん集中して聞いていた姿が印象深かったです。

ひびのない壺のしっかりと役目をこなすところ、ひびの入った壺にもひびがあるからこそその役目もあるというところ・・・そして、それぞれの思いに気付いて行動する少年。

話しが進んでいくにつれて、誰もが感じたことのある劣等感が、少年の行為と思いやりによって、肯定感へと変わっていきます。ぜひ、みつけたらよんでみてください。



## 男のわいわい塾 『家庭で作れる薬膳料理にチャレンジ

Enjoy 漢方ライフ!!』 講師：重川 真佐美さん

わいわい男塾の皆さんと、「家庭で作れる冬の薬膳料理」の講座を担当させていただきました。

今年の1月に引き続きお声がけをいただきとてもうれしかったです。男塾の結成のきっかけは、お酒のあてを作ることから始まったと聞き納得！お料理好きな皆さんとあって、料理の手際の良さときれいな片付けは、本当に文句なしの腕前でした。協力しながら楽しい雰囲気と、時には笑いありであっという間に完成！「美味しい」とのお言葉と、残ったご飯のおにぎり争奪戦が今でも思い出すと目じりが下がります。ご家庭でも薬膳料理を生かして、健康維持にお役立ていただけたら嬉しいです。

私も息子が薬の効かない病におかされたことがキッカケで、漢方薬膳の中医学を学びました。食べるもので体は成り立っていることを息子の体を通して学び、食の大切さを台所を担う方々にお伝えたく県内外で活動しています。

